

森づくりへの参加



公益社団法人
北海道森と緑の会
理事長
堀 達也

森林は、水や空気をきれいにし、木材などの資源を供給し、大雨などによる自然災害から私たちが受ける影響を緩和してくれます。そして、CO₂を吸収・貯蔵することで地球温暖化防止にも貢献しています。私たちの暮らしは森林によって支えられています。

この森林を守り育てていくためには、多くの人たちの協力が必要です。

北海道森と緑の会では、道内で森づくり活動をしているボランティア団体の活動支援を行っています。私たちと関わりのある団体だけでも500ほどの団体があり、活動の内容は様々ですが、北海道の森を守り育てていく大きな力になっています。

森づくり活動、森林ボランティアと聞くと、実際に森に行つて、汗をかきながら木を植えたり、森の手入れをしたりということを思い浮かべる方も多いかと思いますが、森づくり活動への参加の仕方はこれだけではなく、様々な方法があります。直

接、森で「汗」をながす方法はもちろんですが、日本や世界の森の状況を友人や知人に伝えたり、森の楽しさを紹介したりして、森に興味や関心を持つ人をふやすなど、「輪」を広げることも森づくりへの参加の方法です。小さいうちから木と触れ合う機会をつくり、森を大切に思う心を育む「木育」に取り組みのもその一つです。

そして、「緑の募金」など、森林を元気にするために役立つ募金に「寄附」することも森づくりへの参加の方法です。最近では、緑の募金付き商品を販売して募金に協力してくれる企業も増えています。また、北海道の森の木で家を建てたり、北海道の木でつくられた製品や燃料などを購入することも、北海道の森を元気づけることです。

自分にできる自分にあつた方法をみつけて、あなたも森づくりに参加してみませんか。北海道森と緑の会はそのお手伝いをしていきます。

道を造り、森を育てる



道路工業株式会社
代表取締役社長
中田 隆博氏

当社の創立は、札幌に、また舗装道路の少なかった昭和二十四年のことです。以来今日まで北海道の大地で、「まち」と「まち」、「ひと」と「ひと」とをつなぐ、「道造り」に携わってまいりました。

しかし、「道造り」は、社会にとつて大切なインフラ整備ですが、それは、自然というかけがえないものを借りて行う、事業でもありません。このため、「自然への恩返し」をしていこうと、森林再生事業に取り組みました。

このことは、創業者であり、私の祖父である故中田敏博が創業当初から抱いていた「荒廃した道内の山々を、緑豊かな山に蘇らせ、自然と人間との調和の取れた環境保全を行いたい」という強い思いが核となっています。地球環境が取り沙汰される以前の昭和五十二年から、今金町で三千杉を目標に始めた山林の取得は、現在千九百杉に達し、主にトドマツなど

の植林・育成をしています。これは、多角経営の一環として森林事業をやるうという事ではありません。あくまでも、荒廃した山林を健康な山に蘇らせるのが目的です。

平成十一年には私達の「森造り」が認められ、東北・北海道地区民有林造林コンクールで林野庁長官賞を受賞しました。

また、平成二十五年には、環境省のオフセット・クレジット認証を受け、社有林の育成を通じて温室効果ガスの削減・吸収に取り組みんでいます。「森造り」の活動が、地球温暖化防止に貢献していることを、地域の皆さまに広く知っていただける機会と考えています。

森林育成事業は、二代三代と長い時をかけて行う事業です。私には、これからも本業である「道造り」を、顧客のニーズを、誠実に応え、創業者の思いである「自然への恩返し」を忘れず「森造り」に取り組んでいきます。